

ソラース・コンサルティング

保険業界のクラウド利用に関する7つの予測

強まるクラウドの重要性

金融機関・保険会社向けビジネスアドバイザリーとシステム導入を専門とするソラース・コンサルティング(本社:ポーランド・ワルシャワ)のクラウドチーム統括を務めるドミニク・カミンスキー氏は、各国保険業界の経営層を対象に実施した調査結果を基に、保険業界におけるクラウド利用について今後10年の動きを次のように予測する。

1. クラウドが業界のスタンダードに

保険会社の多くがこれまでクラウド導入に二の足を踏んできた一方、業界のCIOなどIT分野の専門家たちはクラウドを推奨してきた。ソラースが2021年に日本、英国、ドイツ、フランス、米国の保険会社に対して実施したアンケート調査によると、各市場トップ10の保険会社のうち8社が、30年までにクラウド移行しているだろうと予測した。クラウド導入を阻む要因としては、導入コストとコンプライアンスの問題が上位を占める結果となっている。

2. クラウド事業者間の競争が激化

クラウド市場では「AWS」と「Microsoft Azure」が市場を独占している。最近ではGoogleが市場参入し、ミュンヘン再保険やアリアンスのサイバー保険、高度な技術を要する人工知能(以下、AI)ソリューションなど、新たな付加サービスの提供を開始している。このような大企業による寡占状態の中でもイノベーションは日々加速しており、既存クラウドプロバイダー間の競争の激化、サービスへのシフト、AIやビッグデータ、セキュリティの活用など、より優れたソリューションが次々に導入されること予想される。

導入コストやコンプライアンスが課題

22年3月に実施された同様の調査では、クラウド利用の促進には経営層の意識改革が非常に大きな鍵となることが示されている。クラウドに対する信頼が高まるにつれ、保険業界でのクラウド導入がより一般的になっていくことが予想される。すでに他の業界で普及しているように、保険業界

においてもデジタル変革の動きが活発になるに伴い、クラウドが標準的なツールになると思われる。「Teecom」「Ionos」「Staciki」といった企業が代表的だ。しかし、これら地域に

根差したプロバイダーは、大手3社が提供可能な技術レベルやセキュリティレベルにはいまだ及ばない。大手クラウド企業は、非常に高いレベルのセキュリティとコンプライアンス認証を提供しており、ローカルプロバイダーよりも規制に関して顧客サポートに優れている。今後は、こうした「先進的」なクラウドプロバイダーの市場支配が継続する中で、ローカルプロバイダーはベシックなソリューションを提供する技術的なツ

タセンターに移動させる準備をしておく必要があるからだ。二つ目の重要なポイントは、マルチクラウド戦略によって向上するスピードだ。マルチクラウドであれば、既存のプロバイダーによる価格方針の変更やサービス範囲と市場ニーズとの乖離(かいり)などが生じた際は、他のクラウドに切り替えることで、柔軟に変化への対応が可能となる。したがって、マルチクラウドを促進する技術的なツ

「Fund」の共同イニシアチフによる「Chmura Krajowa」が2018年に設立された。「Microsoft Azure」「Google Cloud」や独自のクラウドインフラを組み合わせたマルチクラウド戦略を推進している。

5. クラウド規制が実用主義へ移行

欧州保険・年金監督局(EIOPA)は、オペレーター戦略の一環として、保険業界の共通API(アプリケーション・プログラミング・インターフェース)を作成する「オープン・インシュアランス」計画を立ち上

げた。これにより、クラウド規制の方針が予防から実践へと重点が置かれ、EU全域でのデジタル化の促進が図られる。ドイツ政府もクラウドの利活用の強化に前向きな姿勢を見せ、「BIPROe.V.」や「FRIDAe.V.」など、標準化されたインタフェースによるデータ交換の初期アプローチがすでに確認されている。英国ではクラウドがデジタル・イノベーションの踏み切る企業も増えている。IaC(インフラストラクチャー・アズ・アコード)ソリューションやクラウドで利用可能なクラウドアグノスティックな(「クラウドに依存しない」の意味)サービスは、より手軽でベン

「Generali」「BNPパリバ」「MAIF」あるいはアグリゲーターの「Les Furet」など、主要な保険会社ではすでにクラウド導入、あるいは利用開始に向けての取り組みが行われている。金融庁をはじめ政府と業界が一体となり、規制整備を始めクラウド利用拡大に向けた施策を展開する方針だ。

カミンスキー氏



「先進的」なクラウドプロバイダーの市場支配が継続する中で、ローカルプロバイダーはベシックなソリューションを提供する技術的なツ

「Fund」の共同イニシアチフによる「Chmura Krajowa」が2018年に設立された。「Microsoft Azure」「Google Cloud」や独自のクラウドインフラを組み合わせたマルチクラウド戦略を推進している。

「Fund」の共同イニシアチフによる「Chmura Krajowa」が2018年に設立された。「Microsoft Azure」「Google Cloud」や独自のクラウドインフラを組み合わせたマルチクラウド戦略を推進している。

「Fund」の共同イニシアチフによる「Chmura Krajowa」が2018年に設立された。「Microsoft Azure」「Google Cloud」や独自のクラウドインフラを組み合わせたマルチクラウド戦略を推進している。

7. サイバー脅威の増大がクラウド化の流れを後押し

サイバー脅威は、保険業界においても深刻な問題であるのは明白である。増加するサイバー攻撃に備えた保険も多く登場している。同時に、保険会社のITインフラ自体もサイバー攻撃の脅威に晒されている。

6. AIによる業務の自動化がクラウド移行時の重要な目標に

AIの活用がますます浸透し、さまざまな分野でサービスの改善や新サービスの開発の迅速化に生かされている。保険業界においても、AIを用いた引受および保険金支払業務の自動化や高速化、さらには損害予防の領域にまで多くの活用が見られるようになった。しかし一方で、保険会社はレガシー化した旧態依然のITインフラを理由に、利用可能なAIソリューションの導入に消極的な傾向がまた見受けられる。

ソラースの調査では、30年までに保険会社にとって最も重要なテクノロジーとして、RPAによるプロセス自動化やAIと並んで、クラウドが挙げられている。多くの場合、クラウド利用はAI導入の前提条件となる。クラウドプロバイダーは最も先進的で成熟したAIソリューションを提供

しており、常に開発が進められている。この分野で自社ツールを開発することは、リスクの高い巨大な投資になる。したがって、AIベースのソリューション導入を目的としたクラウドへの移行が広まると考えられる。

その解決策の一つに、クラウド導入が挙げられる。理論的には、クラウドはサイバー脅威に対して脆弱(ぜいじゃく)であるとみられているが、クラウドプロバイダーは規模の経済を最大限に活用し、個々の企業がオンプレミス環境で行うよりもはるかに多くのサイバーセキュリティへの投資が可能のため、実際にはより優れたセキュリティを提供することができる。そして保険会社は、暗号化その他のデータ保護ツールを最大限に活用することになるだろう。クラウドは業界のサイバーセキュリティの向上に大きく貢献すると予想される。